（様式⑦-1　小学校・中学校）

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ　学校力向上プラン【学校評価書】

堺市立深井小学校
校　長　　服部　倫子

中学校区(学校群)におけるめざす子ども像
「自らを律し、自ら学び続ける子」の育成

令和7年度　重点目標
学校教育目標「美しい学校にしよう（聴く・挑戦・思いやり）」を踏まえ，重点目標を「多様で柔軟な学びとつながりで，ともに高め合える学校づくり」とし，具体的には　（1）「総合的な学力」の育成，（2）豊かな心と健やかな体の育成，（3）特別支援教育の充実，（4）特別支援教育の充実に取り組みます。

確かな学びの現状
児童は，全体的に落ち着いて学習に取り組む姿勢ができており，活気のある学校生活を送っています。研修テーマを「意欲的に授業に参加し，学びを楽しむ子どもの育成 ～学びのコンパスを意識した単元づくりをめざして～ 」とし，研究教科を算数から全教科に広げ，すべての教師へ研究機会を広げ，教師が教科の本質を理解し，子どもの実態を把握しながら子どもが自ら学びを進め自分ごととして学ぶ授業を展開し，総合的な学力の育成を図ります。基礎・基本的な知識や技能，思考・判断・表現力等の定着と，子どもの心の中でなぜそうなるんだろう！やってみたい！という思い感や問題意識を醸成させ“たい”を主みだすことで，子どもが意欲的に学習に参加し，他者との協働探究的に学ぶことを通して，どのように学ぶのかを考え，子ども自身が自分に合った学びを進める「子ども，が主語」となる授業をめざします。また，学校群ICT授業改善会議を立ち上げ，ICTを活用した個別最適な学びに繋がる授業の検討を始めます。「自主学習71%(6P ↑)」から，毎日の家庭学習で基礎基本の定着を図ります。また，主体的に取り組める自主学習の課題を提供することに着手していきます。学校アンケート結果「自分から進んで挨拶95%(12P ↑)」，「チャイム着席97%(2P ↑)」から，引き続き，規律・基本的学校生活習慣を維持しながら，全員が安心して学び高めあえる学校環境づくりを行います。読書習慣の定着が図れるよう，中図書館と連携し，蔵書数，学級文庫の充実，読み聞かせ等で本に触れる機会を確保し，図書環境を整えます。

豊かな心・健やかな体の現状
概ね楽しく学校生活を送っている児童が多く，教職員との関係も良好です。今年度は，支援学級1学級増（7学級）から，支援学級在籍児童の情報を共有し，令和8年度の制度改正を踏まえ，すべての教員の支援教育の専門性や指導力の向上を図ります。支援が必要な通常の学級在籍児童に対して特別支援教育コーディネーターが，個別の支援計画を立て，担任とともに学級内で支援を行いインクルーシブ教育を推進し，誰一人取り残さない温かな学級づくりを進めていきます。学校アンケート「人が困っているとき進んで助ける91%(2P ↑)」「友だちや他の人に思いやりの気持ちを持って接する96%(3P ↑)」の肯定的回答は高いですが「いじめはどんな理由があってもいけない」では，「そう思う」が62%(2P ↓)「わからない」が7%(5P ↑)の結果を重く受け止め，子どものいじめに対する認識を高め，未然防止・早期発見・解決を図り，教育活動全般を通して豊かな人権感覚と道徳性の育成を図っていきます。体力面では，新体力テストの結果から，すべての学年において記録の向上がみられた。また，全学年において，過去5年間の最高記録を更新している。これを継続し向上できるように，体育の授業において，鉄棒や雲梯を使ったサーキット活動などを取り入れながら改善を図り，運動の楽しさを実感できる授業の充実を図ります。また，引き続き，なわとび朝会では，様々な技に挑戦できるような工夫することで，主体的に参加する態度を育てながら，持久力の向上を図ります。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 （●重点とする取組　★中学校区での取組）	判断基準 （評価のものさし）	評価方法	評価時期	達成状況(年度末) 進捗確認 （～10月）		自己評価		学校関係者評価	
確かな学び	主体的に学ぶ子どもの育成	・基礎基本の定着 ・多様な他者と協働した探究的な学びの充実	●毎日の家庭学習による基礎基本の習得 主体的に取り組む自主学習にむけ，課題を工夫し校報等で提示する。	「家で自主学習を毎日する」肯定的回答概ね80%以上 研修委員会での報告	実践報告 学校アンケート	年度末	○	自主学習のおすすめのテーマを学年ごとに紹介したり，良い自主学ノートを校内やクラスで掲示したりすることで，自主学習への意欲向上を図っている。	肯定的回答「自主学習を毎日行っている」は77%であった。自主学習の評価テーマを複数部門を設け，自らエントリーし，選抜される取組を実施することで学習への主体性を高め，家庭での自主学習率向上につなげていく。引き続き，学校だより に自主学習の例を提示する。	○	・tetoru配信の自主学習の例はとても参考になった。家庭でこそ自分の気持ちを言語化したり，書き出したりすることが大切なのだと，少しずつ実践させていきたい。 ・学校から自主学習についていろいろと提案してくれることは大変ありがたい。
			●学び合いや多様な他者とつながり，探究的な学び等を通じ，どのように学ぶのかを考え，子ども自身が自分に合った学びを進める。	「授業中に交流を通して自分の考えを人に伝える」「先生や友だちの話をしっかり聴く」肯定的回答概ね80%以上 ICTインフルエンサーからの報告	学校アンケート 実践報告	年度末	○	子どもたちが学びたいと思うような授業作りに取り組んだり，自ら学びを進めるために自分に合った学び方を選べる学習形態を取り入れている。	・「授業中に交流を通して自分の考えを人に伝えることができる」は自分に合った学びを進める際に学び合う姿が見られたが肯定的回答が78%と全体で交流する際の課題が見られた。「先生や友だちの話を聴こうとしている」の肯定的回答が96％で，重点課題の取組成果は見られた。 ・ICTを活用した効果的な交流や発表を行うことができている。	○	・できるだけ全員が参加できるようになっているところなど，授業も工夫され楽しそうです。 ・時間や予算が厳しい中，いろいろな体験ができるようにしてくれていると思う。
			★ICTインフルエンサーを活用しながら，効果的なICTの利活用による授業を通して，個別最適な学びで，子ども自身が自分に合った学びを進める。	タイピング等のICT技能の向上やタブレットを活用して自分の考えをまとめたり伝えたりすることができる。 学校群ICT授業改善会議での報告	ICTアンケート 実践報告	年度末	○	ICTインフルエンサーを3回要請し，授業参観を通して，効果的な活用について一緒に考えている。また，校内研修を通して活用の幅を広げている。	「この1年で子どもたちの技能や情報活用能力は向上したと感じる」90%とICT活用効果が見られた。「教員のICT活用幅は広がったと感じる」95%,6回のICTインフルエンサー要請や校内研修の実施で，子どもたちの「自分に合った学習環境づくり」を進めることができた。	○	
	授業改善	・「学びのコンパス」を意識した単元づくり ・子どもが主語となる授業づくり	●★教師が教科の本質を理解し，「学びのコンパス」を意識した単元づくりで，自ら学びを進め，各教科の見方考え方が身につけられるよう自分ごととして学ぶ授業の展開をめざす。	研修委員会での報告 学校群ICT授業改善会議での報告	実践報告	年度末	○	研究授業に向けて学年や研修主任を中心に指導案検討を行い，授業力の向上に取り組んでいる。	・研究授業や指導案検討を通して，子どもたちが自ら学びを進め，各教科の見方考え方が身につけられる授業の改善に取り組めた。引き続き単元を意識した実践，自分ごととして学びを進める児童の育成に取り組む。 ・ICTインフルエンサーの活用で授業改善が進んだ。	○	・ICTを活用した子どもの学習意欲が高まっていることは，評価できる。 ・英語やICTなど，新しい科目を参観できる機会が少なかったので，自分の子どもがどの程度来ているのかがわかると，家でもサポートしやすいと思う。 ・STEAM教育の発表を参観したが，とても面白い取り組みでよかった。今後も続けていくとよいと思う。
			互いの授業を見合う期間や研究授業を通して，探究的に，深い学びへと導く指導方法の工夫改善を行う。	研修委員会での報告	実践報告	年度末	○	授業研究後討議会を通して，取り組むべきことを明確にし，授業改善に取り組んでいる。	研究授業や公開授業，普段の授業を互いに見合い，更に討議会等で意見を出し合うことで授業改善に繋がり，探究的に深い学びへと導く授業に取り組むことができている。引き続き，いろいろな先生の授業を見る機会を作り，授業を指導方法の工夫改善に取り組む。	○	
豊かな心・健やかな体	心の教育	・基本的な生活習慣の確立 ・豊かな人権感覚と道徳性の育成と児童生徒指導の充実 ・成長を認め褒め自尊心を高め、自分と人を大切にする心の育成 ・読書習慣の定着	自ら挨拶をすること，時間を守って行動すること，もくもく・きびきび・すみずみまで掃除することを生活目標に示し，日頃から教職員全員で指導する。	「進んで挨拶をする」「もくもく・きびきび・すみずみまで掃除をしている」「時刻を守って行動している」肯定的回答概ね80%以上	実践報告 学校アンケート	年度末	△	放送や朝会，道徳の授業を通して啓発をしている。また，委員会の児童が挨拶運動を行っている。自分から挨拶できるよう今後も啓発を続けていく。	肯定的回答「もくもく・きびきび・すみずみまで掃除をしている」94%,「自分から進んで挨拶をしている」88%であった。掃除時間に放送による注意喚起や，委員会活動として取り組んだ挨拶運動などが，子どもたちの意識を高めることにつながったといえる。よりよい学校をめざして，今後も啓発していく。	○	・児童が様々な課題を抱えている場合も，学校での習慣づくりによって生活が変わっていく可能性がある。そういう気持ちをもって今後も取り組んでいただきたい。
			★道徳の時間を軸に，道徳教育重点目標である自分も周りの人も大切にして，仲間と共に協力して活動し，自分のやるべきことを最後までやり抜くことができる力をはぐくむ。	「自分にはよいところがある」「自分は困難なことに挑戦している」「自分は友だちやそのほかの人に思いやりの気持ちをもって接している」肯定的評価85%以上	実践報告 学校アンケート	年度末	△	道徳や特別活動の授業で，自分や友だちのよさや努力の大切さについて考える時間を作り，自分も他人も大切にする心を育んでいる。	肯定的回答「自分にはいいところがあると思っている」80%,「私は友だちを大切にしている」98%,「人が困っているときにすすんで助けるなど思いやりの気持ちをもって接している」86%であった。今後も，道徳の授業や人権週間での本の読み聞かせの取組，学級活動の中で，自他の良さを認め，自尊感情や自己有用感の高まりが実感できる学習活動を，引き続き取り入れていく。	○	・「友だちを大切にしている」「思いやりの気持ちをもっている」がアップしていることは，高く評価できる。 ・言葉の使い方，接し方をかんがえて行動できる子がたくさんいると思う。学校外でも，きちんとできるようになってほしい。
			集団づくり活動や人権意識を高める取組を通して，豊かな心を育成する。	「自分にはよいところがあると思っている」肯定的回答概ね80%以上	実践報告 学校アンケート	年度末	○	道徳の授業や学級活動で，思いやりの心を育んでいる。		○	・何かーつでも得意なことや自信のあることがあれば，楽しく過ごしていけるのではないか。
			中図書館と連携し，読書イベントやブックトークを行うことで，子どもの読書量が増えるようにする。	「本を読むことが好き」肯定的回答概ね80%以上	学校アンケート	年度末	○	1・2学期に中図書館と連携した読書イベントを実施して，読書推進をしている。	中図書館と連携した読書イベントには，多くの児童が参加した。「本を読むことが好き」と答えた児童は 66% と低かった。要因を分析し，児童の読書意欲を高めるために，魅力的な選書，蔵書の充実，読書イベントなどを通して読書への関心を伸ばしていきたい。校区の方の本の寄贈の協力により，蔵書数の増加につながっている。	△	・アンケートの質問事項を工夫すると，本を読むことが好きな子の数字は増えるのではないかと思う。 ・子ども園も同じ読み聞かせの取り組みをしているので，読書意欲を高める取り組みを引き続き行っていきたい。
	児童生徒理解	・インクルーシブ教育の推進で誰一人取り残さない，温かな学級づくり ・児童生徒指導の充実 ・秩序と活気のある学びの場づくり	●特別支援教育委員会の充実を図り，在籍児童の情報を共有し，児童理解を深め，全ての教員の支援教育に関する専門性や指導力を高める。	特別支援教育委員会での報告	実践報告	年度末	○	特別支援教育委員会を定期的に行い，情報共有をし，児童理解を深め，日々の指導に生かしている。	・特別支援教育委員会を隔月実施し，全学年の特別支援学級在籍児童や通常の学級内の支援を要する児童の様子や支援状況を共有し，個に応じた支援を早期に検討することができた。委員会内の話し合いや特別支援教育コーディネーターが通常の学級内でできる支援を指導助言することで教員の特別支援の専門性や支援力向上が図られている。 ・「人が困っているとき進んで助ける」91%(2P ↑)と，声かけできる児童が多い。インクルーシブ教育の観点からともに学びを進めていくことができるように，引き続きコーディネーターを中心に啓発を行っていく。	○	「困ったことを相談できる」が91%で2Pアップは，とても高く評価できる。先生の意識が高いということが言え，心の育成がなされていると思います。
			●支援が必要な通常の学級在籍児童に対して特別支援教育コーディネーターが個別の支援計画を立て，担任とともに学級内で支援を行い、インクルーシブ教育を推進する。	特別支援教育委員会での報告 特別支援教育コーディネーターからの報告	実践報告	年度末	○	特別支援教育委員会や放課後に，児童の様子や出来事を共有し指導に生かしている。		○	
			放課後指導や休憩時間など，児童一人ひとりとの関わりを大切にし，子どもの話をよく聞き，児童と教職員の信頼関係を築く。	「先生に困ったことを相談できる」80% 「教職員は子どもの話をよく聞き，相談にのっている」80%	学校アンケート	年度末	○	休憩時間に児童と遊んだり話したり，放課後指導をしたりしている。	肯定的回答「先生はよく話を聞いてくれて，困ったことを相談できる」86%と21Pアップした。今後も，学校生活のあらゆる場面で児童一人ひとりに寄り添い，関係づくりに取り組む。	○	子どもたちが人として土台を作る時期に，愛情と熱意をもって向き合っていただきありがとうございます。私自身，今は見えなくてもいずれ分かってくれたり，誰かに分かってもらえたりするかもしれない頑張りをコツコツ続けていくことの大切さを教えてもらいました。
	体力向上	運動に親しみ，健康な体づくりと体力向上	毎月7のつく日に校内放送で，家での7つのやくそくデーの啓発をする。	「家ではテレビやスマホ，タブレットの時間を決めている」「宿題・自主学習に進んで取り組んでいる」「早寝・早起き・朝ごはん」「本を読むことが好きだ」肯定的回答概ね75%以上	学校アンケート 新体力テスト	年度末	○	7のつく日の給食放送では，教職員が7つの約束に関する話をし，啓発をしている。	肯定的回答「宿題はいつもしている」94%,「早寝・早起き・朝ごはんができている」81%であった。今後も,7つの約束に関する話をし,啓発を続けていく。しかし,「本を読むことが好きだ」は，66%であった。今後も読書イベントや読み聞かせ等を通して読書推進を図る。	○	学校と連携した家庭での指導も必要と考える。
			運動の楽しさを実感できる体育授業の充実やなわとび朝会などの取組を行うことで，児童が主体的に運動に取り組み，総合的な体力の向上をめざす。	「体を動かすことが好き」肯定的回答概ね80%以上 新体力テスト3種目(握力を含む)において堺市平均を上回る	実践報告 学校アンケート	年度末	－	体育の授業研修を実施したり，なわとび朝会を計画している。	肯定的回答「体を動かすことが好き」84%であった。新体力テストでは,全学年3種目以上が堺市平均を上回った。なわとび朝会では,一人ひとりがめあてをもち活動する姿が見られた。	○	連合運動会の時，深井小は運動のできる子が多い方だと感じた。体育の授業も楽しくできるようにしていただいているおかげです。
			「朝食も1品運動」「排便指導」を行い，より良い生活習慣の定着と意識向上に取り組む。	「早寝・早起き・朝ごはん」肯定的回答概ね90%以上 朝食摂取習慣がある肯定的回答90%以上	学校アンケート 食育アンケート	年度末	○	全学年において，朝食調べやどんな野菜を食べたかの調査，排便指導をしている。また,お便りで啓発もしている。	・「早寝・早起き・朝ごはん」81%で12P ↓であった。2回の食育アンケート「朝ごはんを毎日食べているか」は,1学期92.5%→3学期89.8%と3P ↓した。 ・朝食・野菜摂取・排便指導の3本柱は,児童・保護者に定着しており,継続による意識の向上が見られる。今年度より始まった堺市の食に関する調査（5年生対象）では,朝食の知識・理解が堺市平均より2.8P上回っている。今後も継続して取り組む。	○	保護者にも，朝ごはんについて意識してもらえたらよいと思う。
安心安全な学校づくり	危機管理	・「いじめは決して許されない」認識の育成と未然防止，早期発見・解決，迅速対応に向けた取組 ・安心安全な教育環境づくり	●いじめはどんな理由があっても許されないという認識をしっかりと育成し，「いじめ発見アンケート」を定期的に行い，いじめの早期発見・早期解決，迅速な対応に取り組む。	「いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思う」肯定的回答概ね90% いじめの早期発見と対応状況	学校アンケート 問題行動調査	年度末	○	アンケートを実施し，いじめの早期発見，解決について取り組んでいる。	肯定的回答「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」98%で12P ↑した。今後も道徳の授業や人権教育を通して,いじめ防止啓発強化をし,「いじめはいけない」100%をめざす。また,いじめの積極的認知と早期発見に努める。	○	「いじめはいけない」のアップ98%で12Pアップは，とても高く評価できる。アンケート結果から学校が努力を続けていることがよく分かった。
			毎月の安全点検や避難訓練，緊急時の集団下校指導を実施し，安心安全な教育環境を整える。	「学校は,緊急時の対応について，よく考えている」肯定的回答概ね95%以上	学校アンケート	年度末	○	火災・地震・不審者侵入を想定した避難訓練，引き渡し訓練を実施し,緊急時の指導をしている。	保護者アンケート「学校は緊急時の対応についてよく考えている」肯定的回答は87%であった。今後も避難訓練や緊急時対応の指導や過去の震災から学ぶ取組を継続して行い,引き続きその様子をホームページ等で発信していく。	△	子どもからの話やホームページを閲覧していなければ，取りくんでいることを知ることがないので，この数字になっているともいえる。
開かれた学校	保護者地域連携	保護者・地域との連携・情報発信	授業参観オープンスクール,HP,広報,学年・学級だよりなどを通して,保護者・地域へ情報発信を行い,相互理解と連携に努める。	「学校は,校報・ホームページなどで教育方針や取組,子どもの様子を伝える努力している」肯定的回答概ね80%以上	学校アンケート	年度末	○	HPアクセス数は9月末時点で24409件，１日平均133件である。今後もHPを活用し,学校の様子を発信していく。	保護者アンケート「学校は校報・ホームページ等で教育方針や取組,子どもの様子を伝える努力している」肯定的回答は94%,2月9日時点のHPアクセス数は41200件,1日平均132件である。来年度も引き続き,学校の様子を積極的に発信していく。	○	時代とともに保護者が学校に関わる機会が減ってきたので，工夫が必要になってきていると思う。PTAとしても，本部役員や学年委員となることによって学校の様子を知ることができたのは大きかった。
			地域と児童が交流する機会を通して,感謝の気持ちを育む。	「見守り隊や地域の方々に感謝している」肯定的回答概ね90%以上	学校アンケート	年度末	○		肯定的回答「見守り隊や交流を通して地域の方々に感謝している」96%であった。地域の方へのお礼の手紙に感謝の気持ちをしっかりと書くことができており,2月末の「お礼の会」でその思いを伝える。	○	地域は，学校での内容が具体的であれば，協力できる。地域との連携が深まるとよい。

校長より(年度末)
年間6回の研究授業では，学びのコンパスを意識した単元づくりをめざして学びのインフルエンサー，ICTインフルエンサーの派遣を要請し指導助言をいただき，探究的に深い学びへと導く授業を展開しました。また，「マイタイム」として，「誰と学ぶか・何を学ぶか，どこで学ぶか」を取り入れ，子どもが自ら学びを進め自分ごとにして学ぶ授業に取り組むことができてきました。今後も子どもたちが自ら学びを進めながら，各教科の見方考え方が身につけられる授業に取り組んでいきます。家庭学習については，その習慣を身につけるため，担任の働きかけはもちろん，引き続き取り組みやすい課題設定の例を学校だよりとともに発行し，ホームページよりいつでも閲覧できるようにして家庭でも声掛けの協力をお願いしていきます。「友だちを大切にしている98%(5P↗)」「人が困っているとき進んで助け思いやりの気持ちをもって接する96%(5P↗)」，「自分には良いところがある80%(6P↗)」と，心の育成は図られています。また，「先生に困ったことを相談できる(86%)」が21P↗アップ，「いじめはどんな理由があってもいけない(98%)」は15P↗アップしました。教職員が子どもたちとの関わりをしっかりと持ち，困りごとに早期に気づき解決をめざし，子どもたちが安心感を持てるような関係づくりに努めます。また，問題行動については，「何がいけなかったのか」をしっかりと話すことで「繰り返さない」「次をがんばる」ことをつなげ，「誰もが明日も行きたい学校」となるよう，また，「いじめはいけないこと」が100%となるよう，発達段階に応じた心の教育を進めていきます。「本を読むことが好き」が 66%と低迷，読む習慣が身につくよう，読書活動の時間を確保し，蔵書数を増やしていきます。今年度より，学校群の取組が本格実施し，学校間交流が行なわれました。次年度も，校区が一体となって「自らを律し、自ら学び続ける子」の育成 をめざしていきます。

学校関係者評価者から(年度末)
・学校アンケートで，学校に安心してこれる数値が高いのは，苦労と工夫をされているからだということがわかります。「先生に相談できる」の数値が上がっているのは，先生の意識が高いということ，心の育成がなされていると思います。
・いじめの認知を引き続きしっかりとやってもらい，加害のほうがいじめの重大さをしっかりと知ることが大事であるので，指導をお願いしたい。
・遅刻児童へは，家庭との連携をしっかりとっていただき
・自主学習の例は，わかりやすく家庭でも役にたっています。
・中学校との連携も昔と比べてたくさん実施していただき，少し安心して小学校を送り出せそうです，本当にありがとうございます。
・今年，たくさんのボランティアの方にサポートいただいて学校で実施した茶の湯体験は，貴重なものとなりました。たくさんの人と出会える場所であってほしいと思います。地域と学校の連携が深まっていくとよいと思います。
・保護者として，学校に出向くことでわかることがたくさんあり，思っているより不安がなくなりました。助けていただける人がたくさんいることも分かりました。学校に行く機会を増やしてほしいと思います。